

県外派遣報告書

審判員名	中西 功	所属	ミニ連
大会名	第35回関東ミニバスケットボール大会		
期間	平成25年12月21日～平成25年12月23日		
会場	ひらつかサン・ライフアリーナ(平塚市)・秩父宮記念体育館(藤沢市)		
スケジュール			
期 日	内 容		場 所
平成25年12月21日(土)	審判会議		レンタルホーム湘南平塚
平成25年12月22日(日)	男女予選リーグ		ひらつかサンライフアリーナ
平成25年12月23日(月)	男女2位リーグ		秩父宮記念体育館
会議 講義 内容			
<p>講師: 清水幹治氏</p> <p>インターハイで使用したパワーポイントを用いて視覚的な選手の捉え方感じ方を非常に解り易く講義をして頂きました。ハーフコートやオールコートでの見方や捉え方、マニュアル通りにやることは前提の中で、清水氏だったらこうするなど自分の見解を持ち、相手にはこうして欲しいなどコートに立った二人の協力など、いかに共通理解を互いがすることの重要性を言っておりました。また選手が何を考えているか、状態で判断するのではなく選手の考えも予測する事感じる事、よいスペースを捉える為の材料にしていくこともよい審判の条件だと感じました。予測という事を先の事を想像することではなくたくさん引き出しを持つ事、どんな状況にも対応できるようにより多くコートに立つ事がとても重要だという事が特に印象に残りました。</p>			
実技			
	期 日	平成25年12月22日(日)	(男子) 女子
担当試合	対戦カード	新田 VS 土浦	主審 (副審)
	相手審判	遠藤(神奈川)	
ミーティング内容		主任	飯塚(東京)
<p>ボール中心になってしまっている。1対1中心なバスケットだかこのレベルには必ず何かあるという気持ちでコートに立ち続けて欲しい。オールコートディフェンスでエンドからハーフ位までボールを単調なプレイに思えるが、ゴールまで1番短い距離で早く行けるプレイである。ボールが浮いている時間が長い分、ディフェンスも反応する時間がある、必ず接触があるからよし悪しを予測し確実な判定をしていかなくてはならない。リードの時に近くなってしまう、もっと広いビジョンで捉えよ。トレールからのエリア3Iに見に行く姿勢とチャレンジは良かった、トレールしかわからないものが多々あるので足をつかって最終局面でもっとペネトレイトしても良かったと思う。</p>			
	期 日	平成25年度12月22日(日)	(男子) 女子
担当試合	対戦カード	深川 VS 六ツ川	(主審) 副審
	相手審判	中島(群馬)	
ミーティング内容		主任	桑島(神奈川)
<p>オールコートディフェンスで両チームとも展開が速く、常に審判双方の協力が求められるゲームだった。ボールにいくと見せかけて体の預け方は教わっているディフェンスファール、その判定基準をしっかり持たないと偏った笛になってしまう、ルーズボール・リバウンド、ボールが双方どちらでもなく、マイボールにしたくて体を寄せてからボールを取りに行っている、スペースを捉え確実に判定に繋げる材料を見つけなくてはならない。トレールの時にエリア6の大きく跳ね返ったリバウンドボールを確実にトレールから捉えるようにもう少しリングにペネトレイトしなくてはならない。ボール運びの時のハーフライン辺りのボールを受けるプレイがもう少し整理してもよいのではないか、フラッシュ、サイドライン際を抜いていくプレイ、どちらがスペースを埋めているかもう少し整理をつけてもよかったのでは。</p>			

実技						
	期 日	平成25年度12月23日(月)		男子	女子	
担当試合	対戦カード	木場	VS	大岩田	主審	副審
	相手審判	長井(神奈川)				
ミーティング内容				主任	内藤(茨城)	
<p>木場が外回りの選手が小さい選手が多く、それでいて狭い中に入っていくシュートが多かったがフィニッシュがとても巧でスクープシュートやダブルクラッチでかわすシュートが多かった、その中でゴールに突っ込んでくるけれどもディフェンダーのほうが大きいため、接触があるケースがありオフェンスがかわしてシュートにいらつてはいい後方からの接触はリードは最後の最後までスペースを見に行き接触と影響を見にいけるともっとゲームがスッキリいったのではないかと。そして大岩田のビックマンがチームの最終的にいくケースが多かったが、選手経験が浅く感じられ足元の判定基準をもっと明確にしても良かったのではないかと。お互いにもっとエリア5にダブルコールがあってもよかった、特にリバウンド、リードの時に下がり広い視野で捉える。</p>						
実技						
	期 日	平成25年度12月23日(月)		男子	女子	
担当試合	対戦カード	多摩フェアリーズ	VS	桜ヶ丘	主審	副審
	相手審判	相木(千葉)				
ミーティング内容				主任	長井氏(神奈川)	
<p>多摩フェアリーズの4番が圧倒的に体が強く外も中もゲームの中心人物であった、その中で桜ヶ丘は全員で守り少しでも悪いシュートを打たせる努力をしていた。4番は圧倒的ではあるがディフェンスが頑張るがゆえに接触するハンド・体回りに判定がもう少し必要であったのではないかと。プレイを見に行く姿勢やコールのタイミングが少しずれるとバスケットが変わってしまうことも前半からつかんでゲームの大切な時間を感じ取って判定してほしい。大きく判定がずれることはないが淡々と吹きすぎではないかと、もっとゲームの熱さを感じて笛や動きで示せるともっとよいレフリーになれると思う。ギャロップステップやユーロステップなど多種多様なステップがミニバスの選手に増えている中でもっとプレイを勉強し、コートに立てるように努力をしていく。</p>						
全体の感想						
<p>清水氏のレクチャー通りに試合前のコミュニケーション・双方の共通理解の必要性を強く感じました。他県の方と吹くとなかなか芯の部分までコミュニケーションが出来ませんがもっと積極的に声を掛けていければと思います。ミニバスのレベルも非常に高くなりステップやシュートが多彩になってきました、また賢い選手も多く審判が正確な判断基準をもちプレイヤーやベンチと向き合い一つのゲームをコツコツと前半から積んでいく事をこれからも意識していきたいです。</p> <p>今回の派遣を通して神奈川の方々には大変にお世話になり、よい経験が出来ました、この経験を埼玉県他連盟のバスケット、ミニバスケットにフィードバック出来る様に多くのカテゴリーを吹き精進していきたいと思ひます。貴重な経験をさせて頂いた埼玉ミニ連盟の委員会の方々にお礼申し上げます。</p>						